

「ふるさと」の御詠歌

松 濤 基 作曲
鈴 木 錦 承 振 付

準備	正座し扇をぬいて前に置く	
唱え奉る「ふるさと」の	静かに合掌	
こえ	左手膝におろし右手にて	
か	扇をとって膝の上にて構え	
に	腰をうかして斜め右に向きつつ左膝を立て	
ー	右手は横におろし左手は左足のものの上に置く	
ー	扇の先を下につける	
(休)		
歌	手	足
う	扇を体前にて両手で開き	
ウ	左手膝にもどしつつ右手の	
ー	扇を胸につける(表側)	
ー		
ま	右手を少し左にずらせて	
ア	左前より	
ー	斜め右前方へ	
ー	伸す(裏正面)	
れ	右手の扇を左肩に受けるように運び(表上)	
エ	左手袖口をとり右手右上に伸しつつ	静かに立ち
ー	立ち上り扇をサッとかざしてとめる(表正面)	
て	(身体斜右向きのまま)	左足を右足にひきよせる
ー		
は	顔を正面に向ける	
ー		
ー		
(休)		右足を少し出し
ま	両手両側から降して前に寄せ右手の扇子で左	
ず	手の指を数えるように三回動かす(左手扇に	つづいて左足を一步出して腰をおとし
ー		
お	あわせて親指、人差し指、中指の順に折る)	
も		
ー		

歌	手	足
い 		
で	扇を胸の前に運び(表正面)左手掌を内側にそえる	右足を左足に揃える
(半拍休) エ 		揃えた右足を後にひき腰をおとして
ん		顔を斜左上に向ける
ふ	左手のひらを下に右手は扇の表を上にして左	右足斜右に出し左足を右足の
	右に開きながら	前に出しながら
ウ	右手斜右上にのばし左手は左側斜め下に伸す	腰をおとし
る		顔は扇の方向に向ける
さ	前の動作を左側に繰り返す	左足を斜左に出し右足を
	(左手掌上右手の扇は表下向き)	左足の一步前に出す
ア ∴	両手前によせる如く下しながら	右足を正面に向きかえ
と	顔の前に運び扇の表を内にして左手のひらをそえ	左足を一步出しつつ顔は右に向ける
に	両手そのまま扇を前にたおして	左足をまわり易く動かして腰をおとしながら右
	顔正面に向け	に廻り正面を向く
(休)		
(半拍休) ち	右手前に伸し扇の手前の端を左手で	右足斜め右に向け左足を一步出し
ぎ	下からもつ(表右)右上から手前に左手は 下からまわして扇一回転	腰をおとす
り	右手を手前に左手を伸し左腕に扇をのせる	左足を一步さげる
イ 	扇を半分右にまわして先程の反対	右足を一步さげる
し	扇を左腕の上におく	左足を一步さげる
とも	左手袖口にして胸にあて右手扇をにぎり持ち	左足より二歩余りゆっくりとあとは
の	して横に伸し(表正面)	「小走り」にして左の方からまわり
	両手掌を下にして前に伸し(肩の高さ)	正面を向く

歌	手	足
(半拍休) ふ	右手を上から大きく後ろにまわして	右足をひきながら腰をおとし
か	前に伸す	腰をのばしつつ足を揃え
き	左手を同様に繰り返す	左足をひきながら腰をおとし足を
｜		揃えながら腰を伸す
(半拍休) ま	左手左上に捧げ右手「要」をもち	左足一步後つづいて右足をさげ
こ と	かえて(表外)右横下におろし	そのまま右膝をつき
を	左手少しさげ	一度顔を上げて
｜	又静かに捧げる	静かに頭を下げる
｜		
｜		
扇を横で閉じて一度構えてから正面において静かに合掌する		

ポイント注意

- 【うーまー】 扇と体の動き。扇の動きにつれて、体を少し前方につけていきます。
この時、顔はそのまま、扇を見ないようにしてください。
- 【ふるさとに】 顔の向き。「と」で右へ、「に」で正面に向きます。
- 【まことを一】 顔と手の動き。一度顔を上げた時に手を下げ、そして顔をさげながら手を
捧げます。